

⑧ 神矢教親の留学、転任

金工科教授神矢教親（号龍珉）は大正九年三月十五日に欧米留学を命ぜられた。神谷は明治十六年七月十七日高知県幡多郡奥内村大字古満目に生まれ、同四十年本校に入學。同四十五年金工科卒業直ちに本校雇（金工科兼工芸化学助手）となり、大正七年四月図案科第一部金工製作法担任兼務、同八年四月助教（金工科彫金実習金工製作法担任）、同九年三月二日教授となった。

留学の目的は一年間イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ合衆国で金工術を研究することで、出発は大正九年三月二十二日。翌十年九月、イタリアも在留国に加えられた。彼は特に大正九年十月二十五日からロンドンの Central School of Arts of Craft で金工関係の科目を受講し、その余暇に英語、仏語を研修、また、広く美術館、学校、金工商店、工場等々を見学した。ニューヨークから正木直彦に送った手紙は校友会月報の職員動静欄に掲載されているが（本書16頁に転載）、同誌第二十巻第四号にはドイツから正木に送った手紙も次のように掲載されている。

大暑の候益々御清適奉賀候 私事其後無異去る〔大正十年〕四月英國内地の旅行をなし五月初 皇太子殿下の御來歐を御迎へ致し中旬 London 出發 Paris に赴き春李 Salon 等を見て Bruxelles 至り再び Amsteldam 等に赴き各數日間滞在末日常地に來着仕り候 これより當分此地に留り當國內地及北方 Denmark Sweden Norway 及南方 Austria 及 Switzerland 等に向ひ秋冬は France 及 Italy に在留の豫定に致し候〔下略〕

神矢は大正十一年五月二十一日に帰国したが本校へは戻らず、同年六月十五日に東京高等工芸学校教授へ転任し、その後は秋田市上中城町五の私立工芸学校に勤務した（昭和四十年版『卒業者名簿東京美術学校』東京芸術大学美術学部）。

⑨ 伊東亮次の留学

伊東亮次は明治二十年十二月二十二日三河国宝飯郡牛久保町生まれ。明治四十三年七月東京高等工業学校工業図案科（製版特修）を卒業し、翌四十四年十二月同校助教となつたが、大正三年九月、東京美術学校製版科の助教に転じた。彼は同八年三月休職して渡米し、写真および製版術を視察して同年十月帰国、同年十二月復職したが、同九年九月にはイギリス、フランス、ドイツへ一年間官費留学を命ぜられ、同年十月十五日に出発した。

本学所蔵「従明治四十四年至大正十四年、留学生・練習生ニ関スル書類、庶務掛」所収「申報書」(大正十四年五月十四日)文部大臣宛、控)によれば、伊東は大正十年一月五日ロンドン、ファアリンドン街一〇九番のペンローズ会社工場に入り、輪転凹版印刷術を研究し、翌二月一日よりペンローズ・エクスペリメンタル・ラヴォラトリーに入り、ウィリアム・ガンブルに就いて製版印刷術を研究し、さらに同年四月十一日以降はエル・シイ・スクール・オブ・フォトエンングレイヴィング・アンド・ライソグラフィに入り、週二回カートライトに就いて製版術を研究している。

伊東は同十一年七月二十一日に帰国したが、彼の留学は後述の畑正吉と同様、東京高等工芸学校設立準備の一環として行われたもの

で、彼は帰国の一カ月後には同校教授に転任する。

⑩ フェノロサ記念碑建立

大正九年、フェノロサの命日にあたる九月二十一日に「フェノロサ氏記念会」主催の建碑および法要式典が校庭で行われた。碑は一丈二尺の根布川石に長原孝太郎の原画によるフェノロサの肖像と井上哲次郎撰文・大村西崖揮毫の文を広群鶴が鐫刻したもので、本館正面玄関前（美術学部本部正面玄関前の現在地）に建立された。校友会はこれに因んで『東京美術学校校友会月報』第十九卷第六号を「フェノロサ氏記念号」とし、表紙には狩野芳崖筆「仁王捉鬼」の写真を、口絵には記念碑拓本と法明院フェノロサ墳墓並びに納骨館の写真を用い、次の記事を取録して発行した。

一、フェノロサ先生と我国の文化及本校との関係

東京美術学校長 正木直彦

（当日大講堂における講演の筆記）



フェノロサ記念碑拓本

二、我が国美術界の恩人フェノロサ氏を憶ふ

同校教授 大村西崖

（大正九年九月十八日『読売新聞』より転載）

三、フェノロサ先生石碑除幕式並に十三回忌法要

文学博士 有賀長雄

(一)、開会の辞及報告

(二)、斐諾洛薩先生碑（碑文全文）

(三)、謝辞 正木直彦

(四)、法要（寛永寺一山総出による法会の次第）

(五)、悼辞 米國代理大使

(六)、余とフェノロサ氏 子爵金子堅太郎

(七)、フェノロサ氏を憶ふ 男爵浜尾新

(八)、閉会の辞 大村西崖

四、陳列品目録

五、記念晩餐会

六、フェノロサと狩野との関係 北浦（大介）生（狩野忠

信の談話に基づいて執筆したもの）

七、フェノロサ記念会会務報告

八、フェノロサ記念会会計報告

九、編者より

ここでは参考のため上記三および(一)、(二)、四、七を転載する。

フェノロサ先生石碑除幕式並に十三回忌法要

大正九年九月二十一日午後三時より本校美術部玄関前斐諾洛薩

先生碑前に於て、建碑除幕式並に十三回忌法要を舉行せらる。こ